

角館地域審議会

日時 平成23年9月22日（木）14：00～
場所 角館第2庁舎第4会議室
参加者 会長 西宮陽助 副会長 能美忠堯
相馬博之 藤原久榮 藤井嗣信 千葉一明 高橋政宣 鈴木八寿男 渡邊敏明 黒澤昇
（欠席）山本陽一 茂木千代太郎 戸澤雅子 新山睦子
市役所 企画振興課長 佐藤強 課長補佐 高橋信次 主任 鈴木匡尚 主任 佐々木信介
環境防災課長 田中司 課長補佐 田口幸栄

鈴木主任 皆様大変お忙しいところ、角館審議会にお集まりいただき感謝申し上げます。これより審議会を開会したいと思います。はじめに、西宮会長からご挨拶をお願いしたい。

西宮会長 私たちは、3月11日の東日本大震災の経験を経て今ここにいるが、備えというか覚悟というものが全く変わったように思う。本日は率直な意見を戴き、この地域の防災のあり方が一歩でも二歩でも前進するような話し合いをしていきたい。施設や設備が必要になるかも知れないが、財政上の問題もあり、どうしても市に頼らなければいけないハード的な部分は必ずある。そのほかにも自分たちで出来るソフト面をもっと考えていかなければいけないと思う。今日の話し合いについて、前は雪害ということについて話し合ったが、それぞれの災害に対する防災のあり方を個々に検討するのではなく、災害全体を総合的に話し合いたいと思う。

鈴木主任 次に、審議会を担当している企画振興課長より皆様にご挨拶を申し上げます。

企画振興課長 今日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。東日本大震災は、今後の防災体制や全ての面をもう一度見直す機会であり、今日は皆様からいろいろな意見を拝聴し、まとめていきたいと思う。なお、午前中に西木審議会を行っており、のちほど審議の中で報告させていただきたい。なお被災者の受け入れについては、宮城県女川町から現在120名程を受け入れている状況である。

鈴木主任 委員の方の変更をご報告申し上げます。経徳紘一さんが諸事情により辞任、後任に観光協会より黒澤さんを推薦いただき、委員に委嘱申し上げたところである。また、本日出席出来なかったが、農協からは山本陽一さんを推薦いただいている。このたびの地域審議会をもって、地域ごとに開会するのは最後となり、本日の会議を含めて皆様からいただいたご意見をまとめて、答申書の素案を事務局で作成し、12月に3地区合同の審議会において市長に答申する予定である。審議に入るが、審議会の設置に関する協議第7条により、会長が議事進行役を務めるのでよろしくお願いします。

西宮会長 それでは話し合いに移るが、それぞれ地域を代表する形でここにおいでになっている方、あるいは団体からいらしている方などいろいろあるが、それぞれの経験を通して、地域の施設・設備等を充実させたい、地域でこのような取り組みをしたらどうかという話し合いを、限られた時間ではあるがよろしくお願いいたします。

- 環境防災課長 今回の審議会に提案するのは水害・台風・地震・火山噴火等についてだが、全部一括して進めていかなければいけないと考える。去年の7月8月の豪雨災害、そして3月11日の東日本大震災、それから6月23日から24日未明にかけての豪雨災害など、稀に見ない災害が続いている状態だが、今日皆様からのいろいろな意見等を参考に防災計画の見直し、作成をしていきたいと思う。
- 企画振興課長 午前中に行われた、西木地域審議会のご報告を申し上げる。まず地域のリーダーが不在であること、町会長のような方が、自主防災組織のトップになることが必要であるという話がなされた。現状では、町会長のような方が組織しているところもあれば、プライバシー等の問題の関係でなかなかうまく機能していないところもあり、そうした場合に、行政連絡員を復活させて欲しいという強い要望があった。また、消防団が非常に不足しているという現状があった。現在100人ほど定数に届いておらず、角館地区も厳しい。さらに防災無線に関して、山間部でこだまするなど、よく聞き取れない、まして雨降りの時は外の様子がよくわからない、ということもあった。あとで説明があると思うが、仙北市で携帯電話のメール機能を使用した安心安全メールという伝達手段をすでに行っている。こちらをさらに拡充し、角館地区の防災無線については設置する方向で検討しているので、皆様から意見をいただきたい。
- 西宮会長 西木の報告があったわけだが、今の話に関して、もしくは地域のことにに関して、施設や設備が充実しないと困るのではないかということや、いま実際自分たちの地域ではこういう取り組みを始めたとか、取り組まなければならないと考えていることなど、相馬さんから順番にお話ししていただいてよろしいか。
- 相馬委員 いま西木審議会の話でもあったが、地域の声を吸い上げるとか細かなところを見逃さないで対応できる体制が必要と考える。6月の大雨に関して、私の住んでいる白岩地区の玉川、下河原地区について冠水してしまったが、台風等で全国各地が酷い状況になっている。今後今まで以上に護岸など、下川原だけでなく下流の方でも冠水した地域があったので、早めの対応が必要である。地震については、近いうちにこないとも限らない気がするが、そういった場合、地域の長老の方とか防災の情報を地域ごとに集めて、地域住民に知ってもらうような体制があればいいと思う。
- 藤原委員 私も水害に関して、桧木内川に流れて込んでいる玉川が増水すると、桧木内川の水が流れていなくて溜まってしまい、逆流することもある。そのため、本流を広げる等、河川の整備ということが非常に重要なのではないかと思います。橋は流されないように堤防の高さに掲げてあるが、橋の両脇の道路が全然手が掛けられていなくて低いので、橋の高さに調整する道路整備が必要ではないかと思う。
- 藤井委員 3・11の大震災で私たちの生活で一番脅かされたものは、中川地区寺沢地域の飲み水、生活水がまったくなかったことだった。地下水をポンプでくみ上げて生活水として使っているため、地震により電力がストップし、水一滴も生まれないという経験をした。生活の基本なのでなんとか水は確保したいというのが私たち地域住民の大きな要望である。また、万福寺を避難場所として一考していただけたらありがたい。防災無線に関して、広報車のスピードが早く聞き取

りづらいので、ゆっくり移動していただければありがたい。

西宮会長 広報車については同じことを感じていた。家の中では、テレビの音等と混じって聞こえないとことがある。各町内でいったん止まり、サイレンを流して注意を促すなどの方法もあるのではないか。

千葉委員 それぞれ各地域のことも重要ではあるが、角館町全体のことを考えて、いかに予防をしていかなければいけないか、それに重点を置くべきである。行政連絡員を復活させるのであれば、なぜなくなったのかを検証し、機能していなかった反省からスタートしないといけないと思う。地震であれば、いつ起きるかわからないから仕方がないが、事前に台風が来ることがわかっているケースでは、広報車の巡回を多くするとか、地域住民に情報を伝えないといけないのではないか。情報弱者と言われる方々に、行政の声が届くような連絡網を作るべきである。

高橋委員 自分の地域では特に問題はない。防災計画をたてるのであれば、みんなで話し合う必要があると思う。防災無線については、是非設置していただきたい。

鈴木委員 行政連絡員の復活についてだが、防災連絡員の設置ではどうか。それは地域を理解し、動ける人でないといけない。防災無線について、何か所設置するのか知りたい。水害では、桧木内川と玉川がぶつかる落合地域で昭和47年にも大水害があった。去年の水害でも土手まで水が上がったが、整備の確認をお願いしたい。桧木内川の警戒水域を情報発信できればいい。

渡邊委員 白岩に住んでいるが、100年前の大地震の予兆と、最近小さい地震が多発している状態が似ている。だからといって、それに対する具体的な対策を立てれないのが不安ではある。

黒澤委員 防災の考え方として、災害が起きた場合にどう動くか、被害を最小限に食い止める日頃の努力の2点があると思う。起きた場合の想定を地域住民と協議し、予防策を打ち立てていく必要がある。観光の面からいえば、災害が起きた時間によって対応が変わってくると思うが、昼であれば観光客への対応ということもあるので、細かなところまで防災計画を練っていただきたいと思う。

能美副会長 水害については、日ごろの訓練等が大事である。自家発電に関しても定期点検が必要である。桧木内川の水位を発信できる体制づくりは出来ないものか。

環境防災課長 県の振興局の建設部が監視している。消防団の配置、氾濫基準についても設けている。地域住民の方々に早くお伝えする手段は今後の研究課題である。

千葉委員 住民に情報開示するべき。一般の方は、町ではどういう策定をしているのか知りたいと思う。傾斜地についても同様、被害を最小限に抑えることにより、また住民の安心にも繋がる。

田口補佐 先程お話しした、県の振興局のホームページの中で、川の水位をリアルタイムで流している。市のホームページでも見る事が出来るよう検討する。

千葉委員	ホームページで見られる人と見られない人がいる。情報弱者に対してきめ細やかな配慮が欲しい。
鈴木主任	携帯電話のメール機能を利用して、仙北市で安全安心メールを運用している。利用できない高齢者の方には、情報を得た方が教えに行くことにより、それが地域での自主防災組織に繋がっていくものとする。是非ここにいらっしゃる皆様にも登録をお願いしたい。
千葉委員	行政連絡員もしくは防災連絡員が配備された際には、ぜひ腕章等を渡していただきたい。実際の災害現場では指揮系統が重要になってくるので。
相馬委員	災害時の市役所の系統が複雑でわかりづらい。わかりやすく整理して欲しい。
西宮会長	資料によると、角館に9つほど自主防災会が組織されており、それぞれ防災訓練なども行われているようだが、訓練の質を高め、より実的なものでなければならぬと思う。今後は防災に対する取り組みを通して、地域の人間同士の連携交流がより密接になり、住みよい街づくりにも繋がれば理想である。
藤原委員	TVなどで土砂災害の現場などを見ていると、倒木の上の部分が手入れされていない場合をよく見かける。そういう樹木は頭でっかちで風雨に弱い。普段から手入れするなどの施策が必要である。
千葉委員	防災をとおして住民の絆が深まることは大変よいことであるし、災害に強い仙北市というのは、定住希望者や観光客に対してアピール出来る材料だと思う。ぜひ実りある防災計画を作成していただきたい。
鈴木主任	皆様から頂いたご意見・提案などをとりまとめ、12月の合同審議会に答申書の草案として提出させていただきたい。
西宮会長	この会で話し合われた防災に関することを通じて、地域住民同士の交流が活発になり、それが住みやすい、安心・安全なまちづくりに繋がることを希望して、閉会したいと思う。

まとめ	・ 桧木内川・玉川等の河川護岸整備 ・ 水道未普及地域への水道施設整備 ・ 行政連絡員もしくは防災連絡員の設置 ・ 観光客への配慮を ・ 予防に重点をおいた防災計画を ・ 広報車を聞き取りやすくするような工夫を ・ 仙北市安心安全メールの活用 ・ 防災計画を通して、地域住民の交流が深まり、住みやすいまちづくりに繋がって欲しい
-----	--
